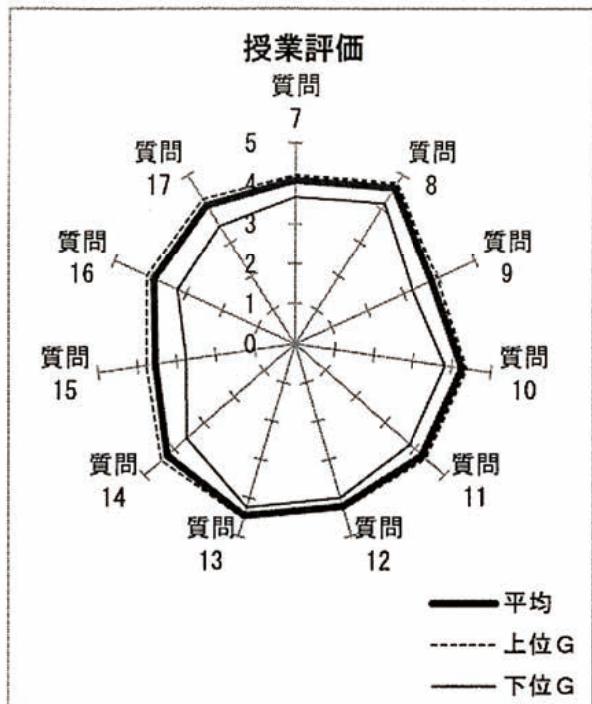


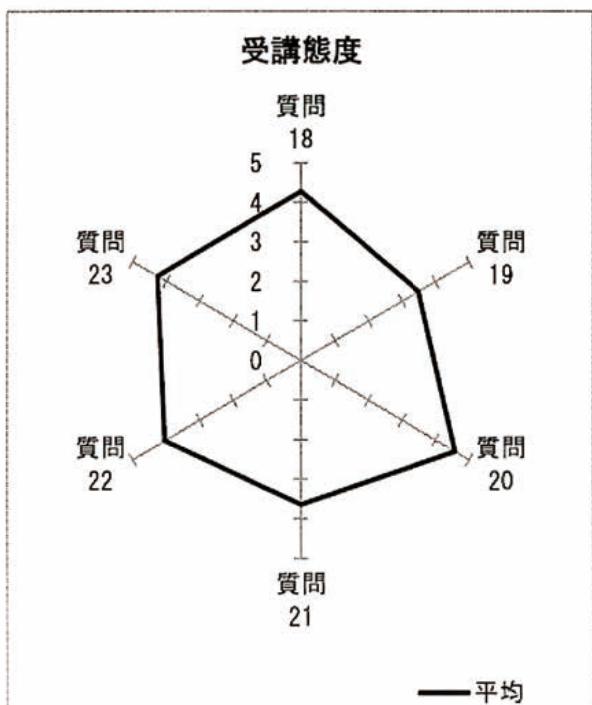
科目コード 601 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 吉井 学 生化学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.1	4.2	3.7
質問 8	4.6	4.8	4.2
質問 9	3.8	4.0	3.3
質問10	4.3	4.4	3.8
質問11	4.2	4.4	3.8
質問12	4.2	4.3	4.0
質問13	4.5	4.5	4.3
質問14	4.2	4.4	3.6
質問15	3.5	3.8	2.8
質問16	3.9	4.1	3.3
質問17	4.1	4.3	3.5
平均	4.1	4.3	3.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	3.5
質問20	4.6
質問21	3.6
質問22	4.0
質問23	4.3
平均	4.1

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	吉井 学	生化学	55名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

本科目は1年生の科目であり、高校において履修した化学と生物の中間に位置する科目である。化学と生物の両方を履修した学生には比較的履修しやすいものであるが、そうでない学生には採りつきにくいものと思われる。また、1年生前期において化学の授業を実施するが不得手意識が強い学生がほとんどである。そんな理由もあり、理解してもらうには相当の時間を必要とする。正規の授業以外にも補習講義を実施したが質問15の「授業を理解できたか」の評価平均が3.5と低い。また、質問16の「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」の評価平均が3.9であり、低迷している。質問17の「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性は4.1であり、重要な科目である認識は有るようである。この科目の内容は2年次・3年次と進級することで「臨床栄養学」を履修する頃に生体の代謝が理解できるものであるから、1年次における評価としては「ますます」であると考えている。2年次の病態生理・生化学を履修することでさらなる興味が増すものと思われる。

## II. 2018年度に向けての取り組み

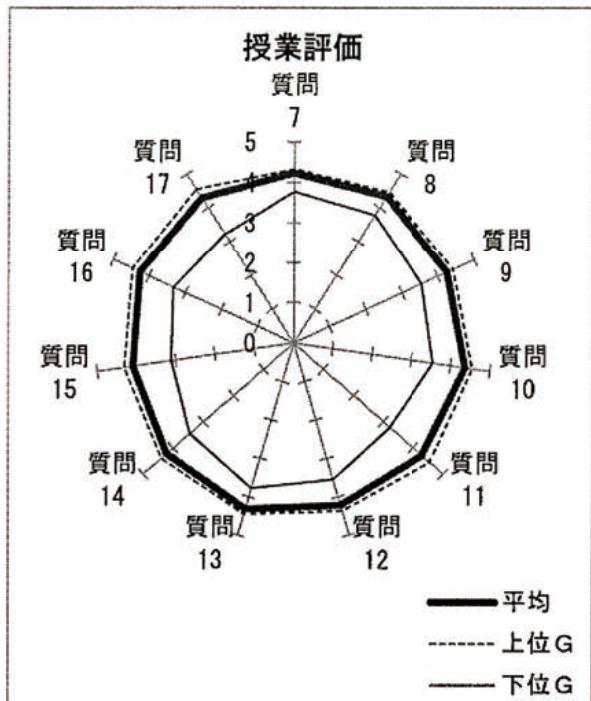
2018年度担当予定科目名：生化学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が質問をしやすい環境を整備する。具体的にはグループ学習の推進である。人体の機能や生化学および病気に関する用語が理解できない学生は、質問したくても周囲の学生の目を気にして質問出来なかつたり、解らない授業内容の把握すらできない学生が存在している。そこでグループを形成することで、グループ内で分からるのは自分だけではないということを気付かせたいと考える。また、予習・復習をグループで行わせることで学習時間内は集中することを体得させたい。グループ内で解らない事項や語彙について調べること。そして質問することを習慣づけたい。また、授業のとちゅうで授業内容が理解できたかどうかの確認のためグループでの確認し合い教え合いの時間をとり、友人との理解度に差が出来ないような工夫を行う。

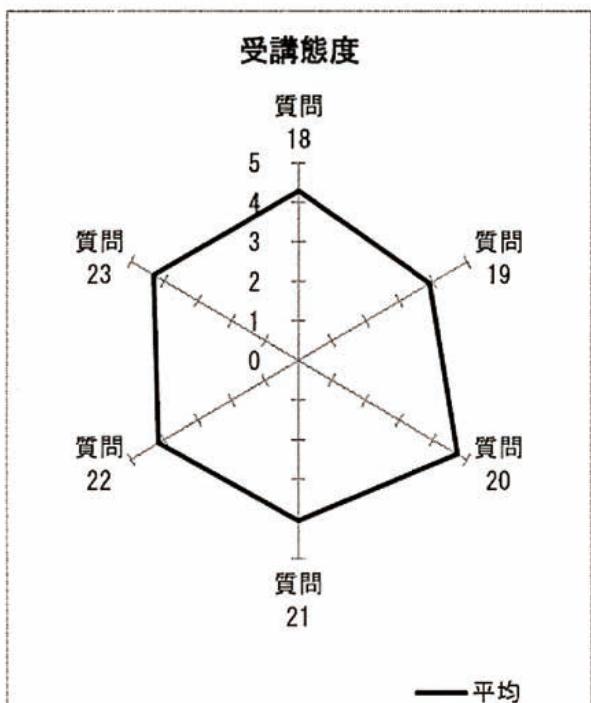
# 科目コード 603 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 井上 靖久 人体構造・機能論 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.2	4.3	3.8
質問8	4.3	4.5	3.8
質問9	4.3	4.4	3.6
質問10	4.4	4.6	3.6
質問11	4.3	4.6	3.2
質問12	4.2	4.4	3.6
質問13	4.3	4.4	3.8
質問14	4.2	4.4	3.4
質問15	4.1	4.3	3.1
質問16	4.3	4.5	3.3
質問17	4.3	4.6	3.2
平均	4.3	4.4	3.5

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	3.9
質問20	4.7
質問21	4.0
質問22	4.2
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	井上靖久	人体構造・機能論Ⅰ	57

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

人体構造・機能論Ⅰでは細胞学をはじめとして、多細胞生物の意義、組織・器官・系統・個体といった人の持つ生物学的特徴を知ったのちに体液（細胞内液、細胞外液、組織液、血液、リンパ液、脳脊髄液）、心臓、血管といった循環器系および呼吸器系について講義を行っている。この2者は免疫なども含めて、全身との密接な関係性を重視して講義している。人体構造・機能論Ⅱでは消化器系、泌尿器系といった吸収と排泄に関する分野と内分泌や生殖といった、恒常性、の維持や種の保存と強く関係する分野の基礎となるものである。これらの解剖学的知識と生理学的理解があつて始めて、人体構造・機能論Ⅱで取り扱う分野が生きてくる。人体構造・機能論Ⅰではさらに骨学、組織総論、を行なっている。しかしながら、時間数の不足から生理学のうち、骨、筋運動等の一部は、人体構造・機能実験の説明時間も活用している。これらによって人体の組成・構造やその働き・機能を理解し、さらに疾病的発生機序を知る上で欠くことのできない科目となってきた。しかし、このことは同時に、学生にとって大変難解となることを意味する。また、人体構造・機能論の講義時間が十分とは言えず、学生の負担になってしまることも事実である。授業評価については授業の理解についての質問に対して4.1と比較的低かった。その他も4.2ないし4.3と、決して高くないよう思う。5点満点を望むのは、科目の性質上止むを得ざることもあるかと思われるが、少しでも良くしたいと思うものの、昨年からの改善が見られない。本年は新しい試みも行ったが、すべてうまく行ったとはいせず、無理があったことも考慮したい。内容を落とさずに学生の理解の助けになるような更なる配慮を第一にする必要性を感じた。授業環境に対する配慮や、授業への学生の興味・関心の喚起度に対する質問に対しても昨年よりかなり上昇している。一方、下位グループの分析から、少數ではあるものの、この科目についていけない学生が一定数いることも事実であると思われるが、授業内容の分量や、難易度は変えられない部分もあるので頭が痛いところである。加えて、下位グループの理解度が3.1と非常に低いのが気になるところである。とくに、科目の理解の再確認に必要と思われる所以、下位グループにも目を向けなければならない。指導を徹底したい。

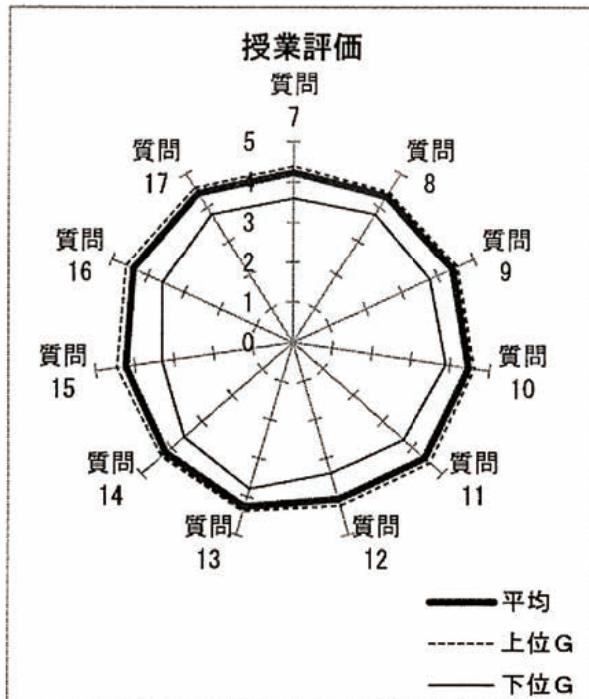
## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：人体構造・機能論Ⅰ

近年理解度を高める努力をしているつもりであるが、むしろ低下していることを大変憂慮している。学生の質の低下も止むを得ないところであるが、専門基礎科目の中では人体構造機能論Ⅱや生化学と並び中心的な科目であると思われる所以専門科目的助けとなるだけではなく、国家試験対策も念頭においていきたい。理論が優先してしまい、実践面で無理を承知で行ってきた経緯があり、昨年よりこの点を改めて、実験とも絡めて学生の理解の助けとなるように、授業と実験の無理のない有機的結合を目指して、時期や配分にも十分留意したいと考えてきた。昨年よりは評価が上がっているのはより、学生のレベルに合わせることが出来たので、あまり無理を強いることもなかったと考えられる。このことからか、かなりの改善が見られたので、今後も生理学分野では日常の環境や行動にわれわれの身体がどのように反応し、恒常性を維持しているのかについて、より具体的に、興味を持って学べるようにしたい。また、解剖学分野では構造を知るだけではなく、それらの構造と機能がいかにうまく相関しているかを講義して論理的な理解の助けとなるようにつとめたい。今後は構造と機能の相関は単に肉眼解剖にとどまらず、顕微鏡組織レベル、さらには細胞レベル・分子レベルまで及んでいることを実感させたい。特に、全身と各部位を繋ぐ循環系分野の講義の充実と浸透圧や酸塩基平衡などの連動する器官系についても加えて充実させたい。また、とくに理解に問題がある学生に対して予習・復習の意欲をいかに高めるかを考えるとともに、機会を捉えての質問を通して学生の興味を引き出すよう日常の講義にも気を配りたい。

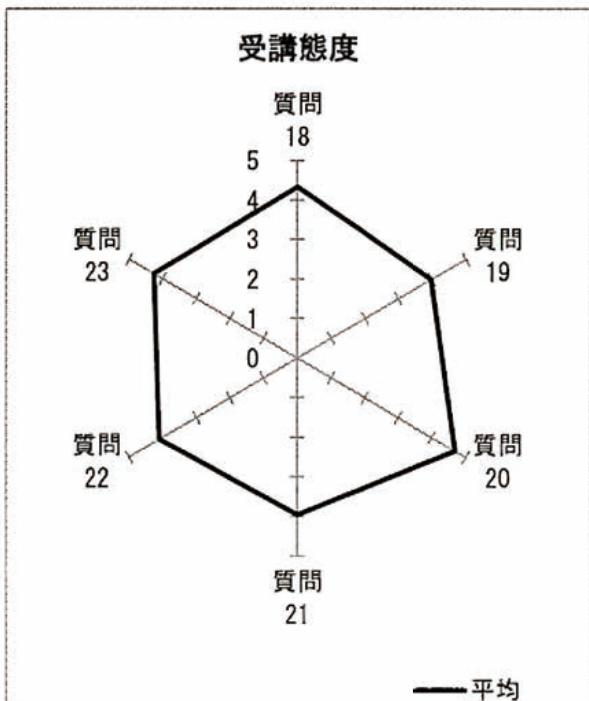
# 科目コード 605 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 光壱 食品衛生学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.4	3.6
質問 8	4.3	4.5	3.8
質問 9	4.4	4.6	3.8
質問10	4.5	4.6	3.9
質問11	4.4	4.6	3.7
質問12	4.1	4.2	3.4
質問13	4.3	4.4	3.8
質問14	4.2	4.3	3.6
質問15	4.2	4.5	3.3
質問16	4.4	4.6	3.6
質問17	4.4	4.6	3.8
平均	4.3	4.5	3.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.0
質問20	4.7
質問21	4.0
質問22	4.1
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田光壱	食品衛生学	55

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

### 【授業評価に関して】

平均は4.1以上であったが、下位Gではすべての質問項目について4ポイントを下回った。昨年の授業に改善を加えて授業を展開したものの下位Gではすべての質問項目で4ポイントを下回った。この原因は不明であるが、おそらく去年の受講生と今年度の受講生の特性の違いに起因するのではないかと考える。従って、授業内容の改善は勿論のこと、さらに受講生の特性について考慮したうえで授業の工夫をする必要がある。

### 【受講態度に関して】

受講態度については、全ての質問項目で4.0以上であった。

質問21「授業の予習・復習を行ったか」が最も低い4.0ポイントであった。次年度から、今年度とは異なるアクティブラーニングの手法を導入する予定であり、教員側から一方的に予習復習の必要性を言ったり課題を出したりするのではなく、学生が自らすすんで予習復習をするような仕組みづくり、主体的に学ぶ学修スタイルの構築を目指んだ教育支援を行っていく予定。

## II. 2018年度に向けての取り組み

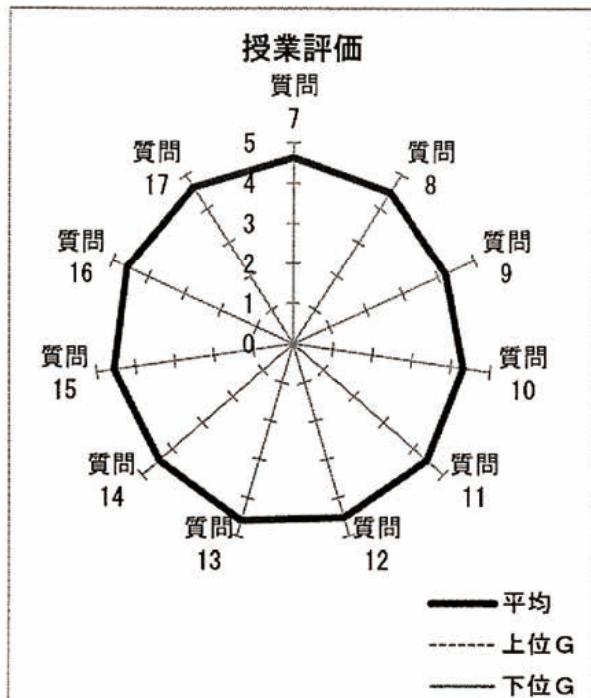
2018年度担当予定科目名：食品衛生学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上記下線部に記述。

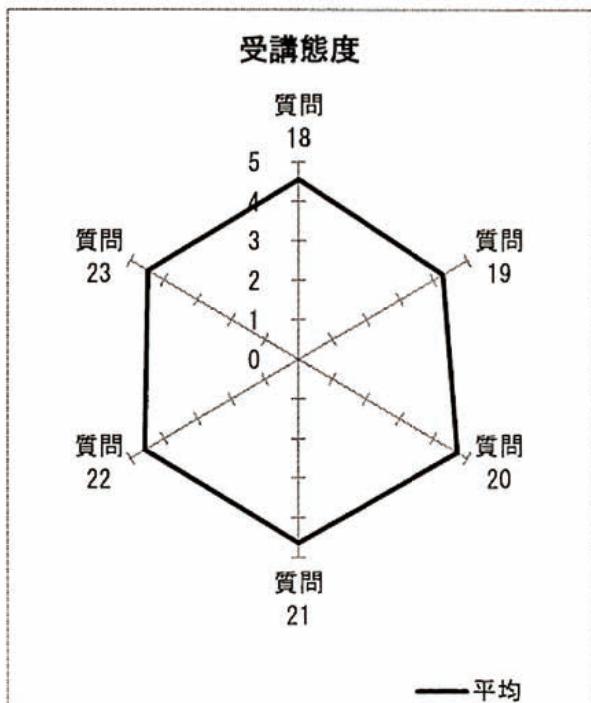
# 科目コード 606 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 久木野 瞳子 調理学実習Ⅱ(Aクラス)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 8	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 9	4.2	4.2	#DIV/0!
質問 10	4.3	4.3	#DIV/0!
質問 11	4.4	4.4	#DIV/0!
質問 12	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 13	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 14	4.4	4.4	#DIV/0!
質問 15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 17	4.6	4.6	#DIV/0!
平均	4.5	4.5	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.7
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	久木野 瞳子	調理学実習Ⅱ(Aクラス)	26

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

例年実習科目は同じ内容を実施していても、クラスによって反応が異なるので、今年度は科目一括ではなくクラス毎にアンケートを実施してみた。

その結果、本クラスにおいては、上位グループ・下位グループの差はなく、全体で平均的な結果を示し、同じ科目のもう一方のクラスと比較すると、もう一方のクラスの上位グループの値とほぼ同様の結果であった。それぞれの質問の中で、最も値が低かった項目は、質問9の「教員の話し方」という項目であったが、この項目は例年、他の項目より低い結果となる課題の項目である。本実習では、4～5品の料理からなる献立で実習を行っているが、限られた時間内に全ての料理を学生の前で作り上げるために、同時進行で複数の料理を作らなければならない。そのため、時折、手元の作業優先となってしまい、説明がわかりにくく場合があったことも考えられた。また、質問11の「機器の効果的な使い方」についても、手元と加熱中のコンロのモニターカット替えまで気が回らず学生に指摘されることがあったので、他の項目よりやや低い結果であった。

## II. 2018年度に向けての取り組み

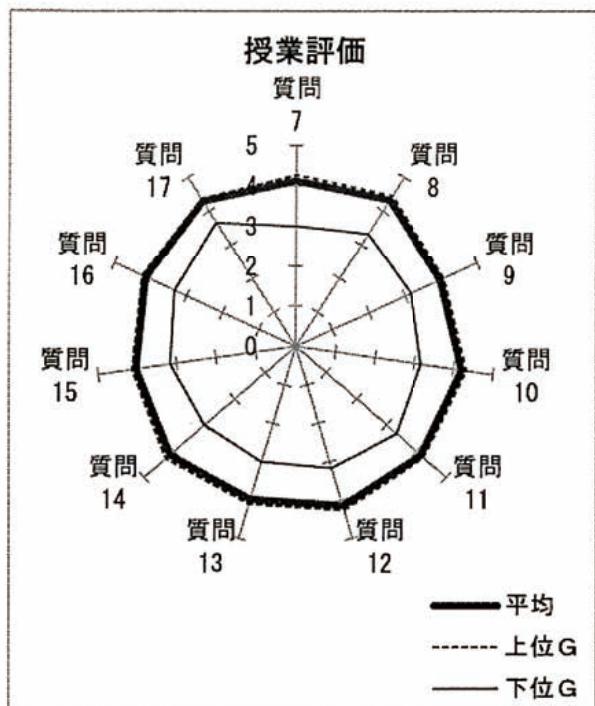
2018年度担当予定科目名：調理学実習Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018年度も同じ科目を実施するので、調理作業中もできるだけ分かりやすい説明を心がけ、二箇所あるカメラのモニターカット替えを有効に行うように留意したい。また、実習の内容を予め充分把握しておくことで、実習前の示範も理解しやすくなるので、必ず予習をしてくることを徹底させたい。

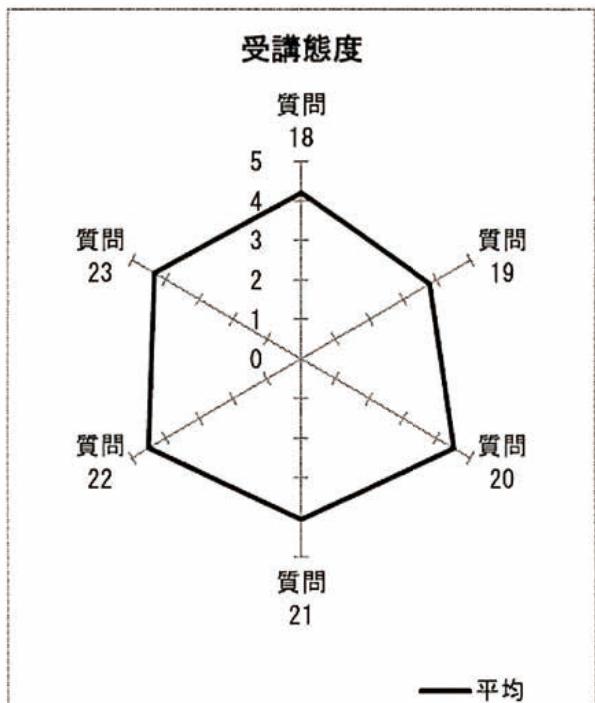
科目コード 607 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 栄養学



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.1	4.3	3.0
質問 8	4.3	4.5	3.3
質問 9	4.0	4.1	3.2
質問10	4.2	4.3	3.2
質問11	4.1	4.3	3.3
質問12	4.1	4.3	3.2
質問13	4.0	4.1	3.0
質問14	4.1	4.3	3.0
質問15	4.0	4.1	3.2
質問16	4.1	4.2	3.3
質問17	4.3	4.4	3.7
平均	4.1	4.3	3.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	3.8
質問20	4.5
質問21	4.1
質問22	4.5
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	栄養学	57名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

授業評価は平均4.0～4.3で、昨年より0.3ほど上昇した項目もあるが、それ程変動は無い。全項目において平均と上位グループはほぼ近いポイントでグラフ上でも重なっている。下位グループにおいては3.0～3.7で、低い項目が多い。改善努力をしてきていて、一昨年まではその効果が見られたと思ったが、今年度はそうとはいえない結果である。同じ項目でも調査年度や対象学生によって評価が異なる。学生の特性によって授業評価も異なるのではないかと思われる。いずれにしても全ての項目においてより一層の改善努力を要すると考える。

受講態度についても平均3.8～4.5で、「授業内容や到達目標を理解して受講したか」がやはり低い。今後も「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」も含め、学生自身の理解や興味・関心・を高めるにはどうしたら良いかをより一層考えながら授業を行うつもりである。

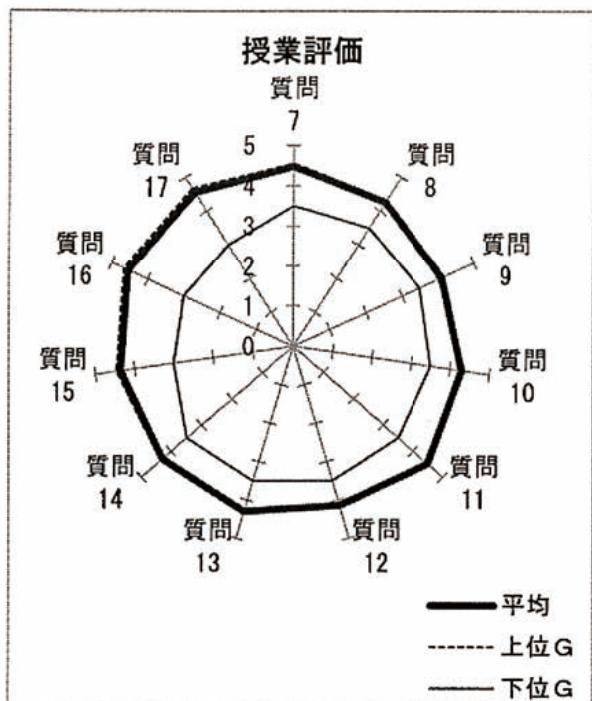
## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：栄養学

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。教員の話し方の改善を常に心掛ける。説明の仕方や板書方法を工夫する。またOHCや教材用DVDなどの映像をこれまで以上に利用し学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考える。一方的な授業にならないように、質疑応答などを工夫し、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進める。小テストも頻繁に実施して、予習・復習の動機づけとしたい。また授業評価の中間アンケートなども利用し、学生の理解状況や要望などを細かく把握し授業の組み立てに利用していく。

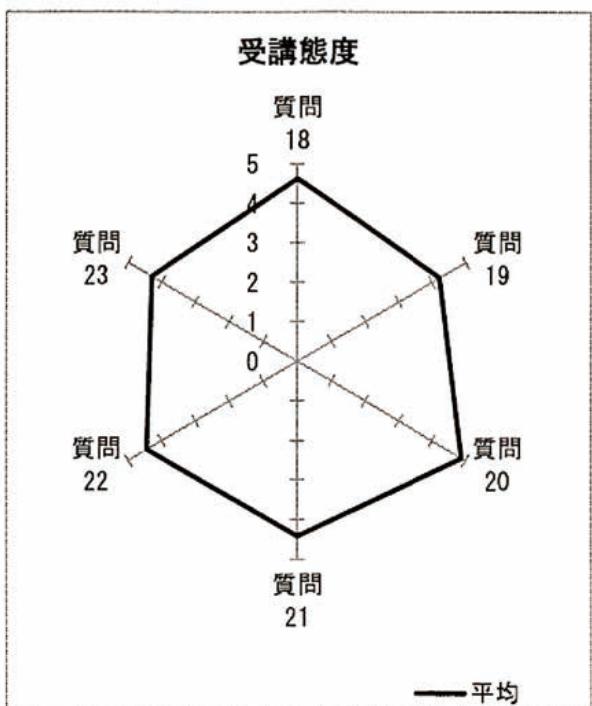
# 科目コード 608 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 久木野 瞳子 調理学実習Ⅱ(Bクラス)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.5	4.6	3.5
質問8	4.3	4.3	3.5
質問9	4.1	4.2	3.5
質問10	4.3	4.4	3.5
質問11	4.5	4.6	3.5
質問12	4.1	4.2	3.5
質問13	4.3	4.4	3.5
質問14	4.3	4.4	3.5
質問15	4.4	4.5	3.0
質問16	4.6	4.7	3.0
質問17	4.6	4.7	3.0
平均	4.4	4.4	3.4

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.2
質問20	4.9
質問21	4.4
質問22	4.4
質問23	4.3
平均	4.5

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	久木野 瞳子	調理学実習Ⅱ(Bクラス)	28

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

例年実習科目は同じ内容を実施していても、クラスによって反応が異なるので、今年度は科目一括ではなくクラス毎にアンケートを実施してみた。

その結果、本クラスにおいては、上位グループと下位グループが存在し、同じ科目のもう一方のクラスが上位グループ・下位グループの差はなく、全体で平均的な結果を示したのと大きく異なる結果となった。また、下位グループにおいては、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」の質問結果が3.0であり、上位グループの4.7と大きく違っていた。この結果は質問17の「新しい知識・技術・理論等への習得への有用性」においても同様であった。もしかしたら、高校において調理に関する専門的知識・技術を既に習得していたため、有用性を感じられず、興味も持てなかつたのか、とも考えてみたが、質問15「授業を理解できたと思うか」においても、上位グループは4.5で下位グループは3.0であったので、授業内容が簡単すぎた、ということではないようである。いずれにしても、本クラスでは、実習内容二万できなかつた学生が存在するということがわかつた。

## II. 2018年度に向けての取り組み

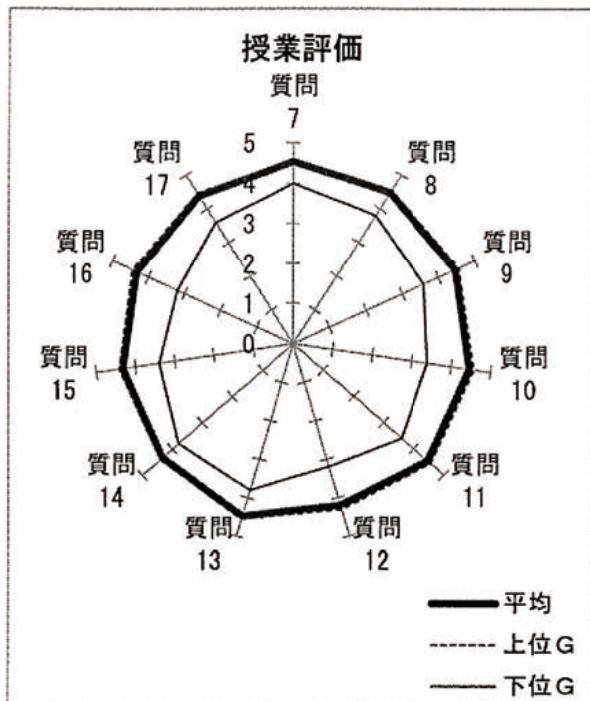
2018年度担当予定科目名：調理学実習Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

本実習では、4～5品の料理からなる献立で実習を行っているが、限られた時間内に全ての料理を学生の前で作り上げるために、同時進行で複数の料理を作らなければならない。そのため、時折、手元の作業優先となってしまい、説明がわかりにくい場合があったために、2017年度は一部の学生に理解しにくかったことも考えられた。また、二箇所あるカメラのモニターカット替えがうまく行かず説明がわかりにくかったことも考えられたので、2018年度は分かりやすい説明を心がけ、モニターの切り替えも有効に行うように留意したい。

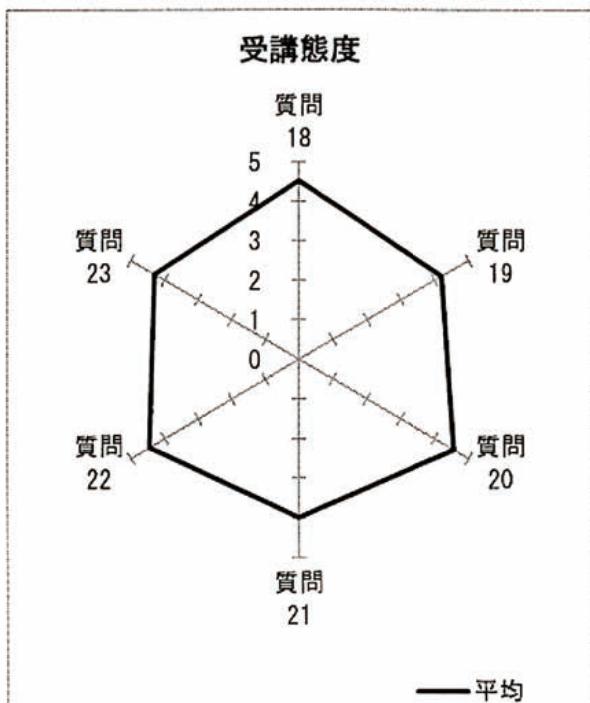
# 科目コード 610 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 井上 靖久 人体構造・機能実験Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.5	4.6	4.0
質問8	4.5	4.6	3.8
質問9	4.5	4.6	3.6
質問10	4.5	4.6	3.4
質問11	4.5	4.6	3.6
質問12	4.2	4.3	3.2
質問13	4.5	4.6	3.8
質問14	4.3	4.4	3.8
質問15	4.3	4.4	3.4
質問16	4.3	4.4	3.2
質問17	4.4	4.5	3.6
平均	4.4	4.5	3.6

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.2
質問20	4.6
質問21	4.0
質問22	4.5
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	井上靖久	人体構造・機能実験Ⅱ	70

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

人体構造・機能実験は解剖学と生理学分野の実験および観察を行う。人体構造・機能実験Ⅱでは解剖学分野では消化器官を中心とした組織学各論や細胞学の他、小動物の解剖も行っている。また、生理学は主に感覚系や行動などの動物機能分野に当たられる。これらはそれぞれに人体の組成・構造やその働き・機能を理解し、さらに疾病の発生機序を知る上で欠くことのできない科目である為、非常に多くの実験項目を抱えており、またその一つ一つが学生にとって大変難解である。また、人体構造・機能論の講義時間が十分とは言えず、どうしても補講的に講義形式の授業を取り入れていることも影響し、学生の負担になっていることも事実である。授業評価については全般に4.3～4.5であり、前回並であったが、授業環境への配慮が4.2であったことを反省している。学生自身の理解度が4.3と昨年に比べてわずかに高かった。また、学生の興味・関心・意欲を引き出したかについてと、新しい知識・技術・理論等への有用性に関しても4.4と重要な項目でもやや評価が高くなつたことは注目している。この部分の評価のさらなる改善には力を入れたいと思う。

重要な基礎科目であると同時に、難解な科目という性質上、もっと高い評価を目指すべきであろうが、なかなか難しい問題である。全体としては学生の理解に留意したことが、わずかではあるがアンケートの点数の上昇に表れていると思われる。学生の理解の助けだけではなく、いかに興味を引くか、いかにその後の専門科目と深く結びついているかを伝える配慮を第一にする必要性を感じた。今後も実習助手と協力して授業を行って行きたい。この科目についていけない学生が多いことにも拠ると思われるが、授業内容の分量や、難易度は変えられない部分もあるので頭が痛いところである。とくに、講義科目の理解の再確認に必要と思われる所以、指導を徹底したい。

### II. 2018年度に向けての取り組み

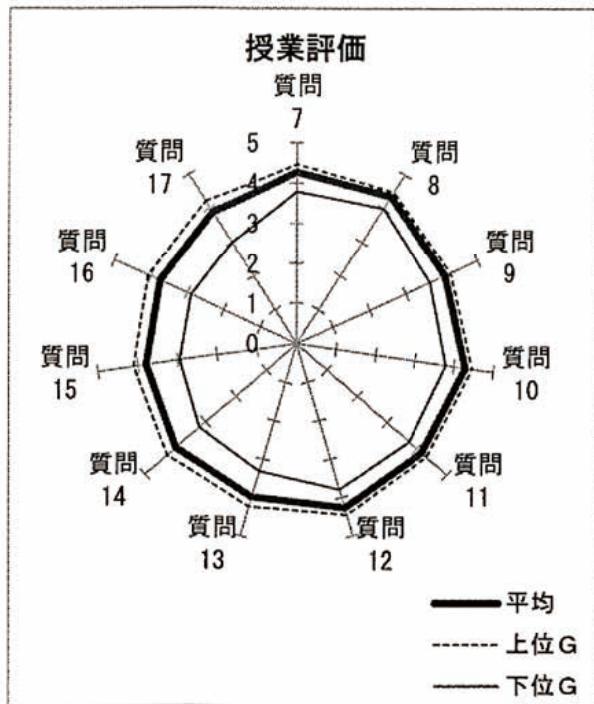
2018年度担当予定科目名：人体構造・機能実験Ⅱ

まず、受講態度の部分で、授業のための予習・復習が4.0、到達目標の理解が4.2とやや低かったことから、授業のための前準備を促していきたい。また、授業内容や到達目標の理解もさらに促したい。特に、予習・復習に結びつく指導を行いたい。専門科目の助けとなるだけではなく、国家試験対策も念頭においていきたい。とはいえ、講義の要素も含ませながら授業を行わないとないと講義時間が補えないこともあります、理論が優先してしまい、実践面で無理がないように改めて、実験を通して学生の理解の助けとなるように、授業と実験の無理のない有機的結合を目指して、時期や配分にもさらに留意したい。

年々、学生のレベルに合わせることができるようになっていると思われ、あまり無理を強いることもなかつたと考えられる。しかし、大きな改善は見られなかつたのでこれに満足せず、今後も生理学分野では日常の環境や行動にわれわれの身体がどのように反応し、恒常性を維持しているのかについて、身を持って体験することにより、興味を持って学べるようにしたい。また、解剖学分野では構造を知るだけではなく、それらの構造と機能がいかにうまく相關しているかは述べて論理的な理解の助けとなるようにつとめたい。今後は構造と機能の相関は単に肉眼解剖にとどまらず、顕微鏡組織レベル、さらには細胞レベル・分子レベルまで及んでいることを無理せずに実感させたい。特に、脳・脊髄や感覚器のような、難解な部位に関して、いかに機能と構造が密着しているかを学ばせたい。最後に、学期末のワークショップ方式の発表会の前に発表のための指導を充分に行いたい。また、実生活に関連した質問を通して学生の興味を引き出すような実験にしていきたい。

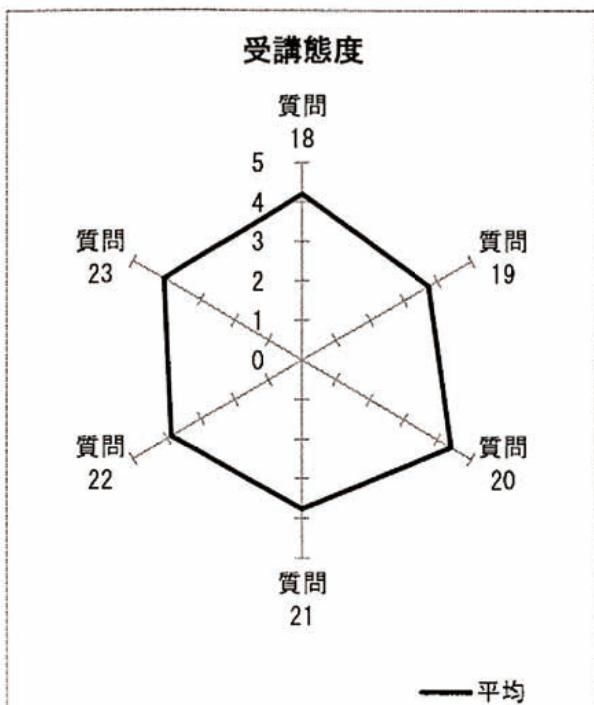
科目コード 611 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 松永 知恵 栄養教育論 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.5	3.8
質問 8	4.4	4.5	4.0
質問 9	4.1	4.3	3.7
質問10	4.3	4.5	3.8
質問11	4.2	4.3	3.7
質問12	4.3	4.5	3.8
質問13	4.0	4.2	3.3
質問14	4.0	4.3	3.2
質問15	3.8	4.1	2.9
質問16	3.8	4.1	2.9
質問17	3.9	4.2	3.0
平均	4.1	4.3	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	3.7
質問20	4.4
質問21	3.8
質問22	3.9
質問23	4.1
平均	4.0

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自衛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	松永 知恵	栄養教育論 I	77

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

授業評価の平均点は良い評価であった。昨年は授業評価の上位と下位に差が見られなかつたが、今年度は質問15, 16, 17で大きく差が開いた。例年、理解不足の学生の対応を検討してきて、その効果が昨年は出たと思っていたのだが、学年が変わると対応できていなかつたようである。質問15～17の下位層への対策は今後もますます増えるのではないかと懸念する。今後も継続して授業の進め方を工夫していき、学生の理解度・満足度を高めたい。受講態度の平均点も良い結果であるが、この学年は授業中に騒いではなかなか静まらず、また、途中退席や居眠りが目立っていた。学生の自己評価と教員側からの印象は異なる。本科目を受講した学生は、後期の栄養教育論IIを履修しているので、引き続き理解が深まるように講義していきたい。

## II. 2018年度に向けての取り組み

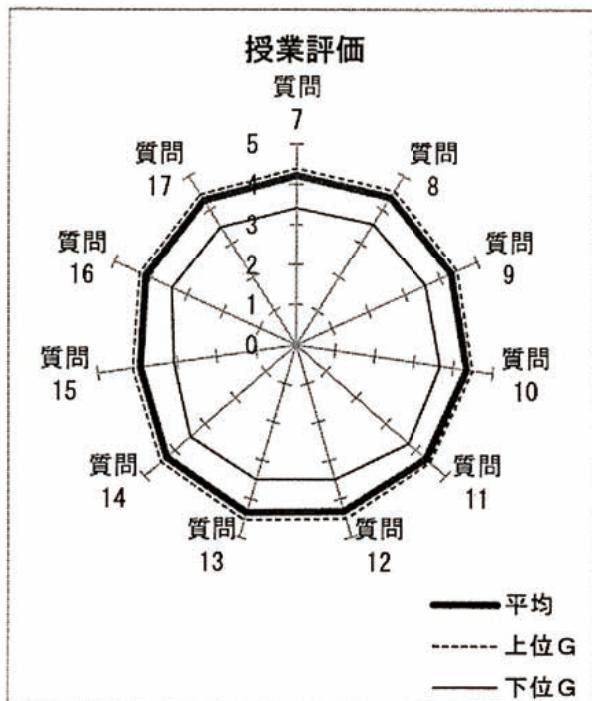
2018年度担当予定科目名：栄養教育論I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が授業を理解できているか否かを確認するためにも、今年度以上に小テストを入れて、全体の理解度を上げられるようにしたい。また、これまでの評価の気づきも忘れずに、今後も教育内容を充実させ、学生の意欲を高めるような授業運営を工夫したいと考える。今回の結果も今後の授業に反映し謙虚に学生への教育に励みたい。

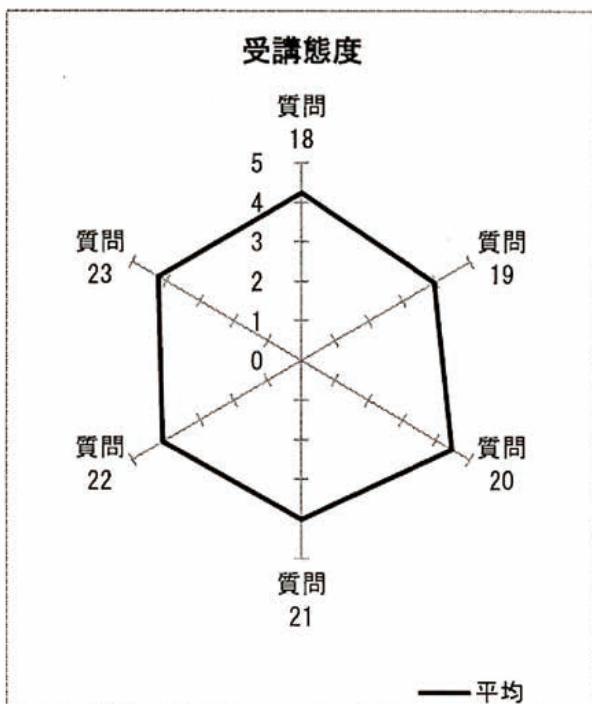
科目コード 614 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 吉井 学 臨床検査医学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.4	3.4
質問 8	4.4	4.6	3.6
質問 9	4.3	4.5	3.6
質問10	4.3	4.5	3.7
質問11	4.3	4.5	3.8
質問12	4.3	4.5	3.5
質問13	4.4	4.6	3.5
質問14	4.3	4.5	3.5
質問15	3.9	4.1	3.1
質問16	4.1	4.3	3.4
質問17	4.3	4.5	3.5
平均	4.3	4.4	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.0
質問20	4.5
質問21	4.0
質問22	4.1
質問23	4.2
平均	4.2

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	吉井 学	臨床検査医学	76名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

本科目は2年生の科目であり、管理栄養士には必須の臨床関係の科目を学ぶにあたって疾病・疾患について臨床検査の意義や異常値の解析等の基礎をなす科目である。また、将来、職務につくに当たり臨床系での説明するに当たり根幹を成す科目でもある。この科目内容を理解するためには人の生体成分について相当の理解が必要である。さらに理解のための生化学の知識が相当量必要と考える。この科目は単独では成り立たず、病理学、解剖学、生理学の知識も相当量に要する。そのため、理解してもらうには相当の時間を必要とすることは明らかである。

今回の分析では下位グループの質問15の理解度に関するものの評価が低かった。これは授業で使用する言語の問題であると推測する。言語の意味が理解できなかったことによる評価と考えると合点がいく。そうであれば、今後はいまより理解しやすい語句を使う必要があると思われる。しかしながらこの科目に必要とされる用語は多岐に渡るため、相当の自主学習が必要と考えられ、用語解説に補講が必要であると思われる。下位グループへの補習で15の授業の理解と興味・関心・意欲を導き出せるものと考えられる。

## II. 2018年度に向けての取り組み

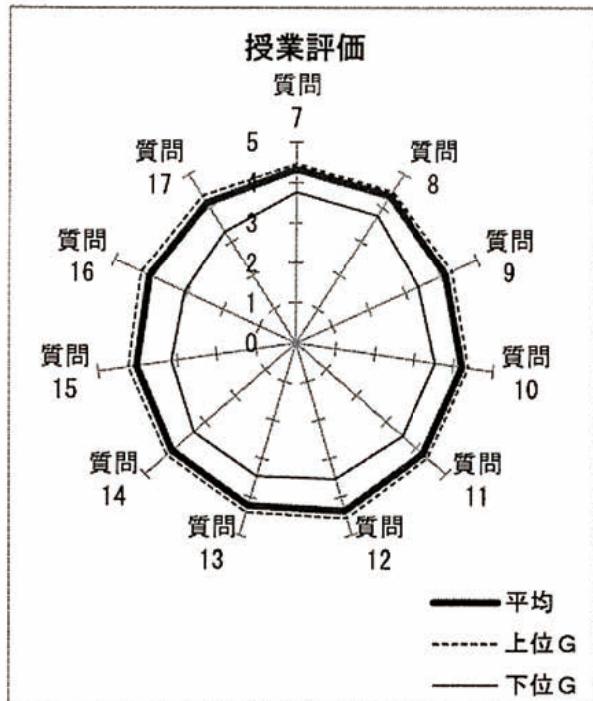
2018年度担当予定科目名：臨床検査医学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が質問をしやすい環境を整備する。具体的にはグループ学習の推進である。化学の用語が理解できない学生は、質問したくても周囲の学生の目を気にして質問しなかったり、解らない授業内容の把握すらできない学生が存在している。そこで質問カードの整備を実施し、グループ内で分からるのは自分だけではないということを気付かせたいと考える。また、予習・復習をグループで行わせることで学習時間内は集中することを体得させたい。グループ内で解らない事項や語彙について調べること。そして質問することを習慣づけたい。また、授業の途中で数回グループで理解できているのかどうかの確認のための教えあい確認し合いの時間を設ける。

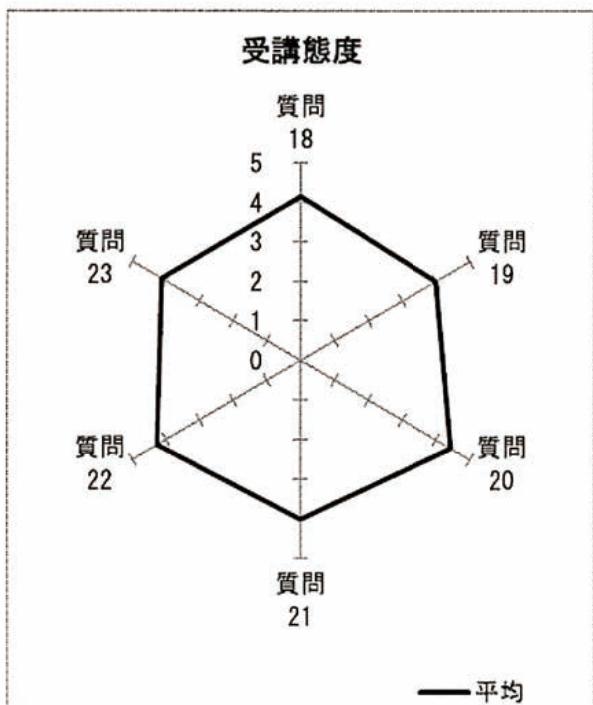
# 科目コード 615 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 応用栄養学実習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.3	4.5	3.8
質問8	4.4	4.5	3.8
質問9	4.1	4.3	3.4
質問10	4.2	4.4	3.5
質問11	4.2	4.4	3.5
質問12	4.4	4.6	3.5
質問13	4.2	4.4	3.5
質問14	4.1	4.3	3.4
質問15	4.0	4.3	3.2
質問16	4.0	4.3	3.1
質問17	4.2	4.4	3.3
平均	4.2	4.4	3.4

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問8：教員の授業時間遵守  
 質問9：教員の話し方  
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11：教員の説明のわかり易さ  
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.1
質問19	4.0
質問20	4.4
質問21	4.0
質問22	4.3
質問23	4.1
平均	4.2

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	応用栄養学実習	75名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

授業評価は全項目平均4.0～4.4で、昨年より0.5前後低下した。全項目において平均と上位グループはほぼ近いポイントでグラフも円形を成して重なっている。下位グループにおいては、ほとんどが3.5前後である。一番低い項目が「授業の興味・関心・意欲を引きだしたか」であった。毎年、ライフステージの献立・調理の分野は興味を持って臨んでいるようであるが、栄養ケア・マネジメントの分野にはあまり興味が持てないようである。この下位グループの学生にもわかり易く、興味・関心を引き出し、理解を深めるための授業を実施するには、かなりの努力が必要であると思われる。毎年改善を試みていて、その効果が現れているかと思われる年度もあるが、今回は前年度より低下してしまっている。その年の学生に応じた内容を工夫する必要がある。

受講態度については平均4.0～4.4で、昨年度より0.5前後低下した。自己評価の低い学年は、授業評価も低くなる傾向があると感じる。学生の自己評価を高め満足度を高めていくことが教員の授業評価の上昇につながっていくと考える。

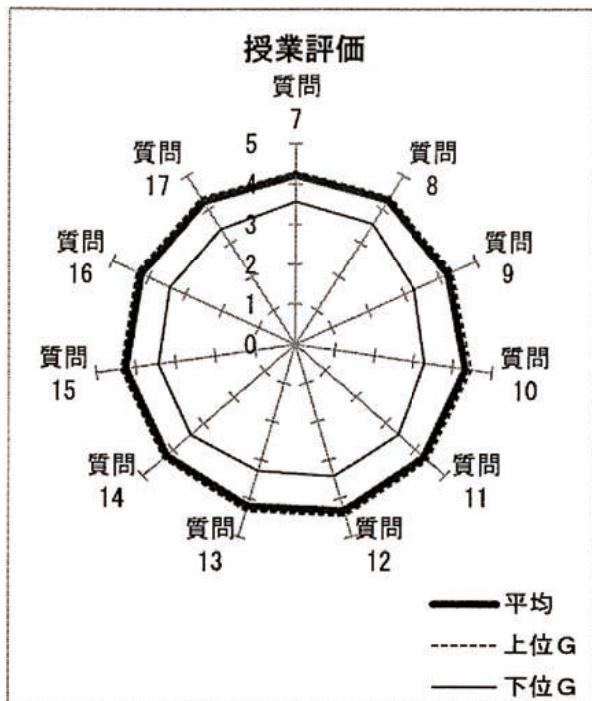
### II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：応用栄養学実習

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。実習内容に新しい項目を追加して学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考えている。学生の理解度を確認するために小テストとコメントカードを利用して、「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」を認識させることを意識する。

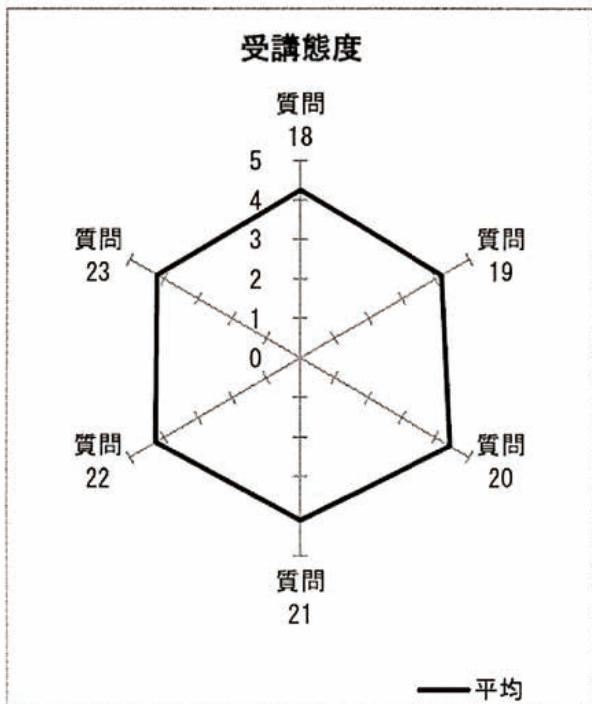
科目コード 616 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 応用栄養学Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.3	3.6
質問 8	4.3	4.4	3.6
質問 9	4.2	4.4	3.3
質問10	4.3	4.5	3.3
質問11	4.3	4.4	3.4
質問12	4.3	4.5	3.4
質問13	4.2	4.3	3.3
質問14	4.2	4.3	3.4
質問15	4.3	4.4	3.4
質問16	4.2	4.3	3.4
質問17	4.2	4.4	3.4
平均	4.3	4.4	3.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.2
質問20	4.4
質問21	4.1
質問22	4.2
質問23	4.2
平均	4.2

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	応用栄養学 II	75名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

授業評価は全項目平均4.2～4.3で、昨年より0.5前後低下した。全項目において平均と上位グループはほぼ近いポイントでグラフも円形を成して重なっている。下位グループはほとんどの項目で3.3～3.6と低い。昨年度は改善努力が功を奏してきたかと考えたが、今年度は高いとはいえない結果である。これまで同じ項目でも調査年度や対象学生によって評価が上下しており、学生の特性によって授業評価も異なるのではないかと思われる。全ての項目においてより一層の改善努力を要すると考える。

受講態度についても平均4.1～4.3で、昨年度より0.3～0.6前後低下した。自己評価の低い学年は、授業評価も低くなる傾向があるようである。学生の自己評価を高め満足度を高めていくことが教員の授業評価の上昇につながっていくと考える

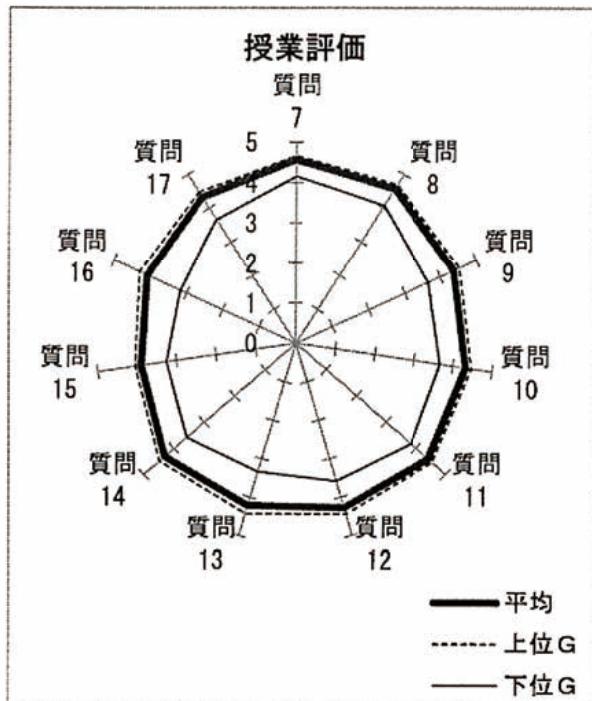
## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：応用栄養学II

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。教員の話し方の改善を常に心掛ける。説明の仕方や板書方法を工夫する。またOHCや教材用DVDなどの映像をこれまで以上に利用し学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考える。一方的な授業にならないように、質疑応答などを工夫し、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進める。小テストも頻繁に実施して、予習・復習の動機づけとしたい。また授業評価の中間アンケートなども利用し、学生の理解状況や要望などを細かく把握し授業の組み立てに利用していく。

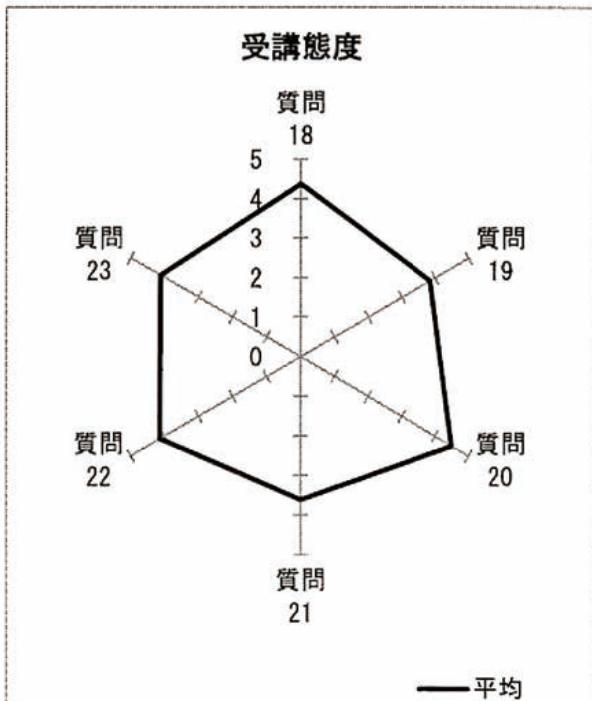
科目コード 617 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 晴美 臨床栄養学 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.2
質問 8	4.6	4.7	4.1
質問 9	4.4	4.5	3.7
質問10	4.3	4.5	3.7
質問11	4.4	4.5	3.8
質問12	4.3	4.4	3.6
質問13	4.2	4.4	3.3
質問14	4.3	4.5	3.6
質問15	3.9	4.0	3.3
質問16	4.1	4.3	3.2
質問17	4.3	4.5	3.7
平均	4.3	4.5	3.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	3.8
質問20	4.5
質問21	3.6
質問22	4.1
質問23	4.1
平均	4.1

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田晴美	臨床栄養学 I	74名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

臨床栄養学Iは臨床栄養管理に必要な基礎知識を学習し、傷病者の栄養ケアの知識、技法などを理解することを目的としている。授業評価の平均は4.3（昨年4.8）であったため授業評価と受講態度を比較分析した。授業内容や到達目標を理解して受講したかは3.8、予習復習を行ったかは3.6と低く自分は真面目に授業に取り組んだかは4.4の評価となっていた点は真面目ではあるが、積極的ではなかったと考えられる。質問機会の確保と質問への適切な対応は4.2と低く、毎回の小テストの下に質問項目を設け、回答は次回スライドにて解説しプリントも提供する方法をとってきたが、今年度はそのやり方では理解できなかつたと考えられる。学生の理解度の確認と授業への反映も4.3と低かった。臨床栄養学Iは初めて臨床栄養の難しい言葉などに触れるため、できるだけわかりやすい言葉や実際の症例から興味を持つように授業に工夫をしているが今年度の学生は、これまでとは違い、評価が厳しい結果となつた。

## II. 2018年度に向けての取り組み

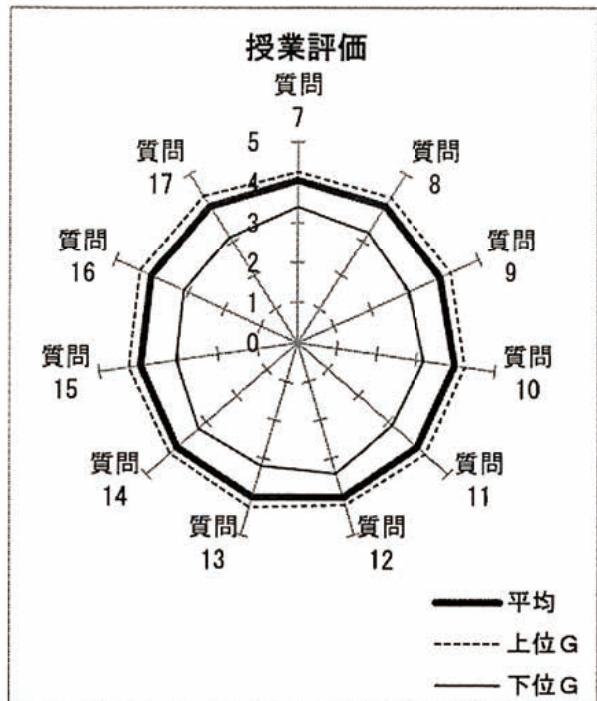
2018年度担当予定科目名：臨床栄養学I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

15回の授業の感想には、臨床栄養に興味が出てきて、病院栄養士の道も視野に入れたいとのコメントも多く見られたので、やりがいのある分野としての取り組み方を伝授できるよう更に工夫をしていきたい。

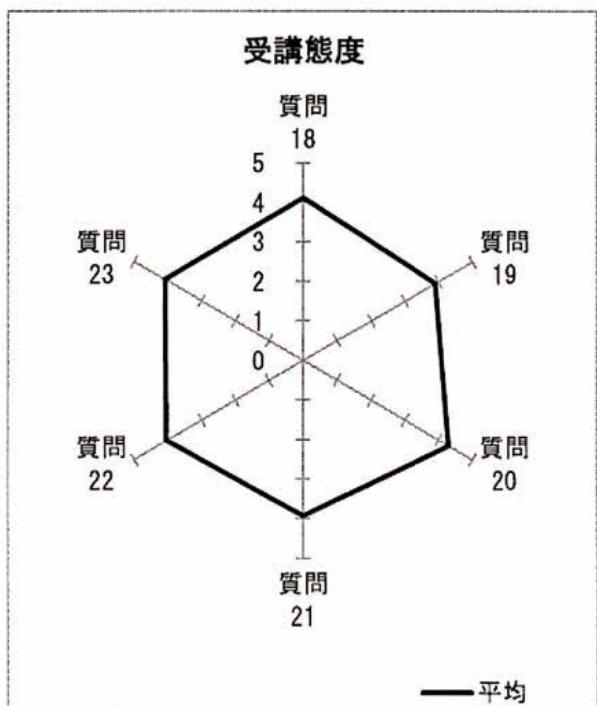
# 科目コード 618 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 小川 彰子 給食運営論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.1	4.3	3.4
質問 8	4.1	4.3	3.3
質問 9	3.9	4.2	3.1
質問10	4.0	4.2	3.2
質問11	4.0	4.2	3.1
質問12	4.0	4.2	3.4
質問13	4.0	4.3	3.2
質問14	4.0	4.2	3.3
質問15	4.0	4.3	3.1
質問16	4.0	4.3	3.1
質問17	4.1	4.4	3.1
平均	4.0	4.3	3.2

- 質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8：教員の授業時間遵守  
 質問 9：教員の話し方  
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11：教員の説明のわかり易さ  
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.1
質問19	3.9
質問20	4.3
質問21	3.9
質問22	4.1
質問23	4.1
平均	4.1

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	小川彰子	給食運営論	75

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

### 分析

評価はどの項目もあまり変わらないと感じた。

成績下位者の評価が低くなっている。

### 評価

現在の授業方法を継続し、更に内容を深めていく必要を感じた。

献立作成、グループ活動などより実際的な課題を取り入れとよいと考える。

但し、履修者のうち10名程度が評価シートを白紙で提出することに対し疑問を感じた。

## II. 2018年度に向けての取り組み

### 2018年度担当予定科目名：給食運営論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

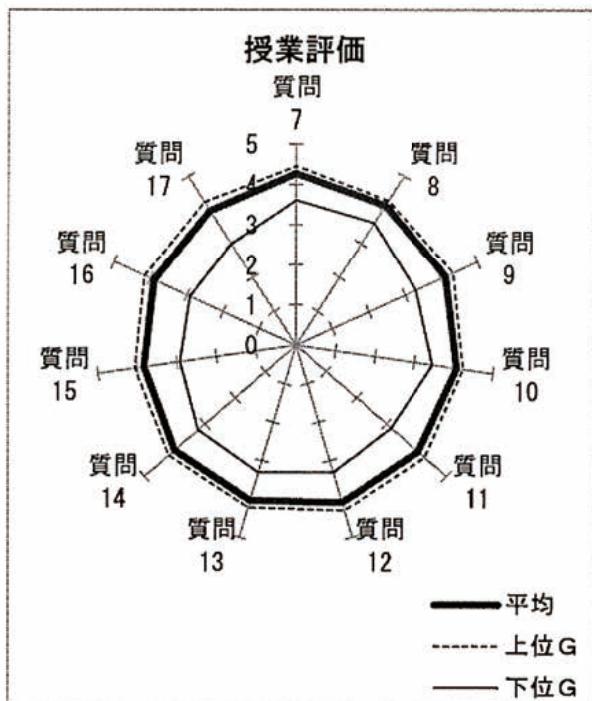
現在の授業方法を継続する。

献立作成にこれまでより時間を割く。

グループ活動が、3年次の給食経営管理実習につながるため、充実したものになるようメンバー構成、課題を考える必要がある。

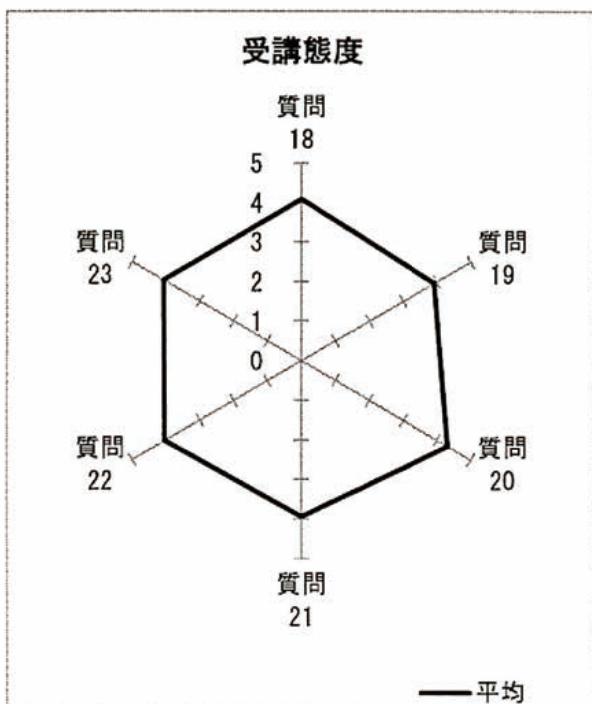
科目コード 619 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 小川 彰子 給食経営管理論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.5	3.6
質問 8	4.1	4.3	3.6
質問 9	4.1	4.3	3.3
質問10	4.1	4.2	3.5
質問11	4.0	4.3	3.2
質問12	4.1	4.3	3.3
質問13	4.0	4.2	3.3
質問14	4.0	4.2	3.2
質問15	3.8	4.1	2.9
質問16	3.9	4.2	2.9
質問17	4.0	4.2	3.0
平均	4.0	4.3	3.3

- 質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8：教員の授業時間遵守  
 質問 9：教員の話し方  
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11：教員の説明のわかり易さ  
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.1
質問19	3.9
質問20	4.3
質問21	3.9
質問22	4.0
質問23	4.1
平均	4.1

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	小川彰子	給食経営管理論	74

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

### 分析

評価はどの項目もあまり変わらないと感じた。

授業を理解できたか、興味・関心・意欲を引き出したかの項目が他より低く出ている。

成績下位者の評価が低くなっている。

### 評価

現在の授業方法を継続し、更に内容を深めていく必要を感じた。

身近な実例を挙げて講義することが大切である。

学生の生活に結びつかず、関心を持たせにくい分野もあるため難しいところがある。

但し、履修者のうち10名程度が評価シートを白紙で提出することに対し疑問を感じた。

## II. 2018年度に向けての取り組み

### 2018年度担当予定科目名：給食経営管理論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

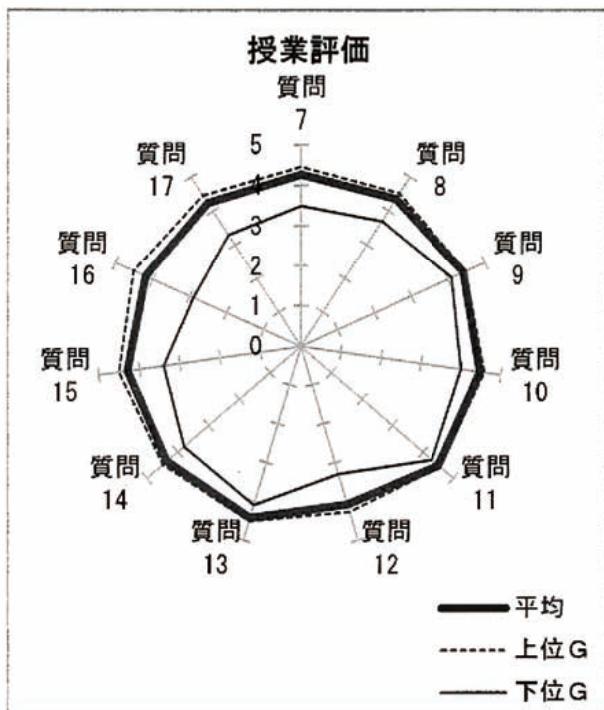
現在の授業方法を継続する。

より身近な、分かりやすい実例を挙げて説明をする。

振り返りテスト、小テストの実施、採点を厳格に行う。(振り返りテストは採点には加えないため、実施態度不良の学生が多く見られたため。小テストは、事前勉強が不足している学生がいたため。)

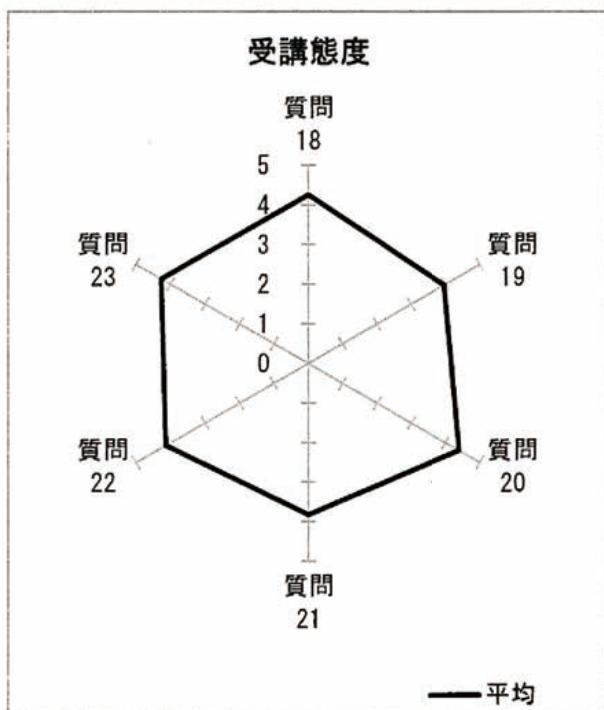
# 科目コード 621 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 光亮 食品加工学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.3	4.5	3.5
質問 8	4.4	4.5	3.7
質問 9	4.4	4.5	4.1
質問10	4.5	4.6	4.0
質問11	4.5	4.6	4.3
質問12	4.1	4.3	3.3
質問13	4.4	4.5	4.1
質問14	4.4	4.5	3.8
質問15	4.3	4.5	3.4
質問16	4.2	4.5	2.9
質問17	4.2	4.5	3.3
平均	4.3	4.5	3.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.0
質問20	4.4
質問21	3.8
質問22	4.1
質問23	4.3
平均	4.1

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田光毫	食品加工学	75

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

### 【授業評価に関して】

上位Gでは質問12(4.3)を除いた項目が4.5以上であった。一方、下位Gでは質問7, 8, 12, 14-17が4ポイントを下回った。

質問12「教員の授業環境に対する配慮（私語の注意など）」については、適宜、配慮しているが、下位Gグループでこの項目の評価が低い原因は不明である。もしかすると、心理的要因が背景にある可能性が高いので調査したいと思う。また、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」については、最も低い2.9ポイントであった。従って、2018年度は興味を喚起させるような授業の工夫を試みたいと考える。

### 【受講態度に関して】

受講態度については、殆どの質問項目で4.0以上であったが、唯一質問21「授業の予習・復習を行ったか」が最も低い3.8ポイントであった。次年度から、今年度とは異なるアクティブラーニングの手法を導入する予定であり、教員側から一方的に予習復習の必要性を言ったり課題を出したりするのではなく、学生が自らすすんで予習復習をするような仕組みづくり、主体的に学ぶ学修スタイルの構築を目指んだ教育支援を行っていく予定。

## II. 2018年度に向けての取り組み

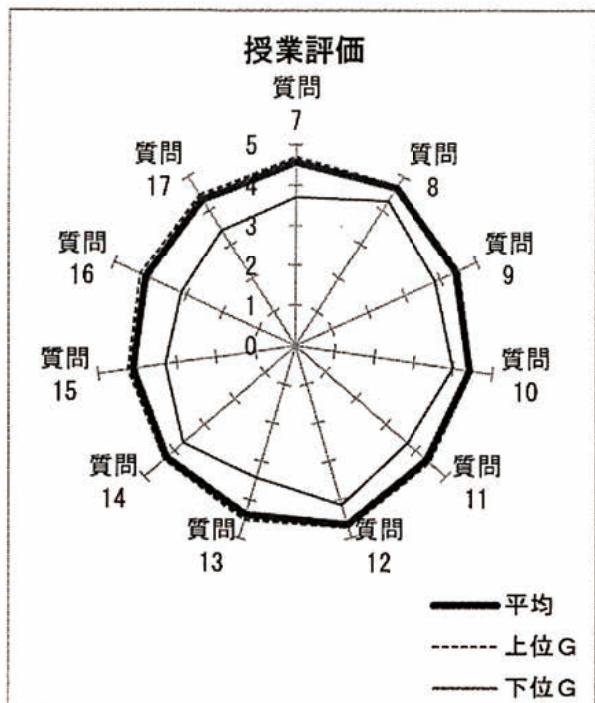
2018年度担当予定科目名：食品加工学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上記下線部に記述。

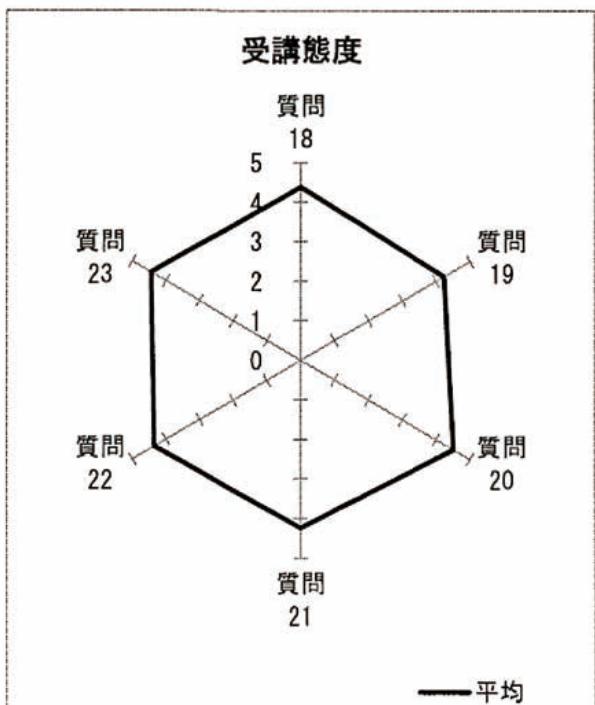
科目コード 631 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 馬場 輝實子 病理学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	3.7
質問 8	4.7	4.7	4.3
質問 9	4.4	4.5	3.9
質問10	4.4	4.5	4.0
質問11	4.4	4.5	3.7
質問12	4.7	4.7	4.1
質問13	4.4	4.5	3.4
質問14	4.3	4.4	3.7
質問15	4.1	4.2	3.3
質問16	4.1	4.3	3.1
質問17	4.3	4.5	3.4
平均	4.4	4.5	3.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.5
質問21	4.2
質問22	4.3
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	馬場輝實子	病理学	65名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

学生の評価には満足していますが、質問8.教員の授業時間の遵守について、10分前には教室に入り、授業は超過したことはありません。この事実についての評価は平均4.7ですが、この原因は何でしょう。従って、学生の評価について、あまり役立っていません。(毎年のことですが…)

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：病理学

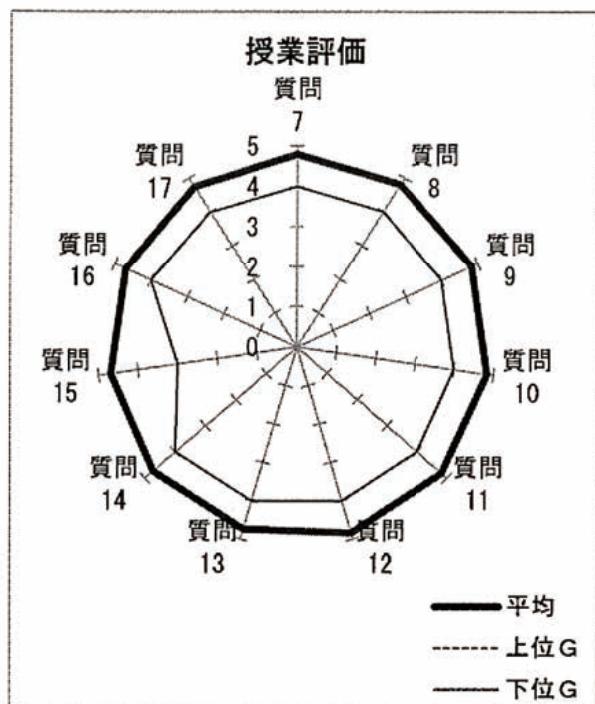
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生さんはよく勉強していると思います。医学を教えるには時間が足らなくて、小試験(学生の希望)や質問を受けることは無理で申し訳ないと思っていますが、授業終了後に質問してくる人はおります。そして、時間内に終了するために、だんだん早口になることが時々ありますが、パワーポイントの資料を前以て渡しておりますので、努力して欲しいと思います。

資料の内容は国家試験に向けて、できるだけ判りやすいように、新しいものを取り入れております。

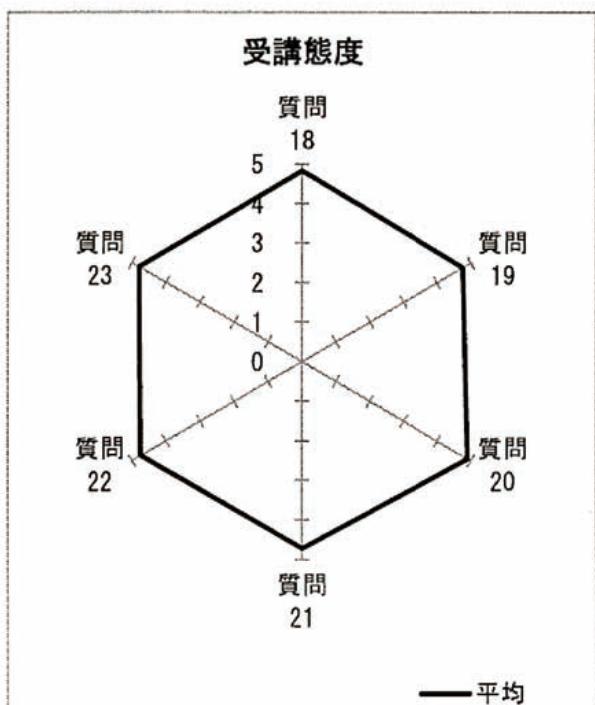
# 科目コード 633 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 松永 知恵 栄養教育論実習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	4.0
質問 8	4.8	4.8	4.0
質問 9	4.8	4.8	4.0
質問10	4.8	4.8	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.8	4.8	4.0
質問13	4.7	4.8	4.0
質問14	4.7	4.7	4.0
質問15	4.7	4.7	3.0
質問16	4.7	4.7	4.0
質問17	4.7	4.8	4.0
平均	4.8	4.8	3.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.8
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	松永 知恵	栄養教育論実習	66

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

授業評価の平均点は全体的には非常に良い評価で、受講態度も良かった。しかしながら、質問14だけ下位G3.0と差が開いた。質問14について、受講生が多く、また、授業内容も多いにもかかわらず、時間は限られている。学生の理解度に差があるクラスでは、授業運営が難しいと常々感じている。理解度が低い学生は今後も増えるのではないかと懸念する。どのように教育すればよいか、さらなる教育方法を見つけ、学生の理解度・満足度の高い授業を目指したい。

## II. 2018年度に向けての取り組み

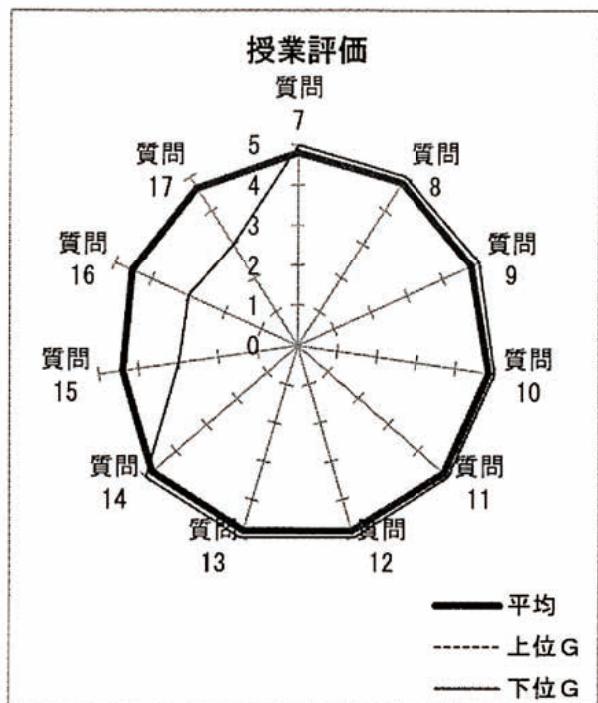
2018年度担当予定科目名：栄養教育論実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

これまででも、授業の中で学生一人一人もしくはグループごとに、課題に対しての補足説明や学生からの質問に一つ一つ答えていたが、それでも「どちらかといえばそう思わない」という回答をする学生が存在する。1クラス35名前後の中で、このような学生を見つけることが非常に難しいが、学生一人一人にできるだけ対応できるようにしていきたい。その他の気づきも忘れずに、今後も教育内容を充実させたいと思う。今回の結果をふまえ、良い面は広げ、反省すべき点は改善したい。そして、今後も学生の意欲を高めるような授業運営を工夫したいと考える。これまでの結果を、今後の授業に反映し謙虚に学生への教育に励みたい。

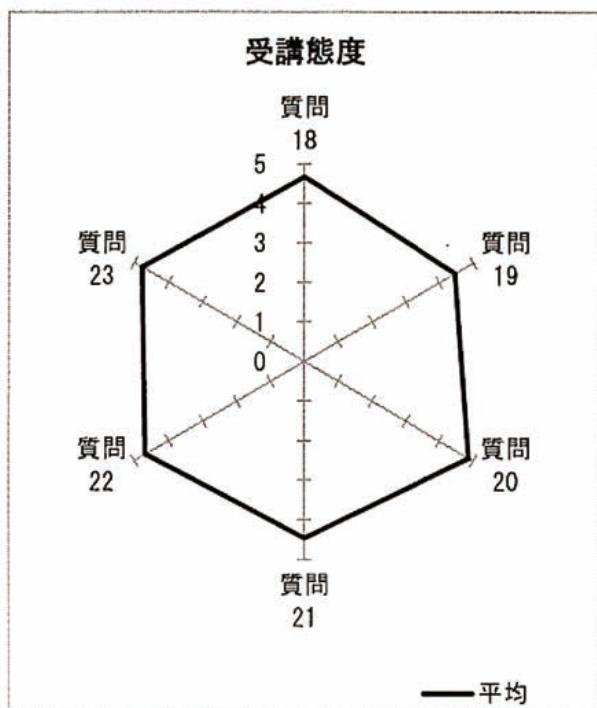
科目コード 634 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 晴美 臨床栄養教育実習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.8	4.8	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	4.8	4.8	5.0
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.4	4.4	3.0
質問16	4.5	4.6	3.0
質問17	4.7	4.7	3.0
平均	4.7	4.7	4.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田晴美	臨床栄養教育実習	65名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

臨床栄養教育実習はグループ学習による臨床の現場における集団及び個人栄養指導の方法を学ぶ場である。まずグループで準備をし、ロールプレイを行うことでその大変さや楽しさが今年度は理解できたと考える。授業評価の平均は4.7、教員の説明のわかりやすさは4.9、質問7～14までは4.8と評価が高く、受講態度の平均も4.7であったことから学生の授業への取り組み方が非常に高かったと評価できた。

## II. 2018年度に向けての取り組み

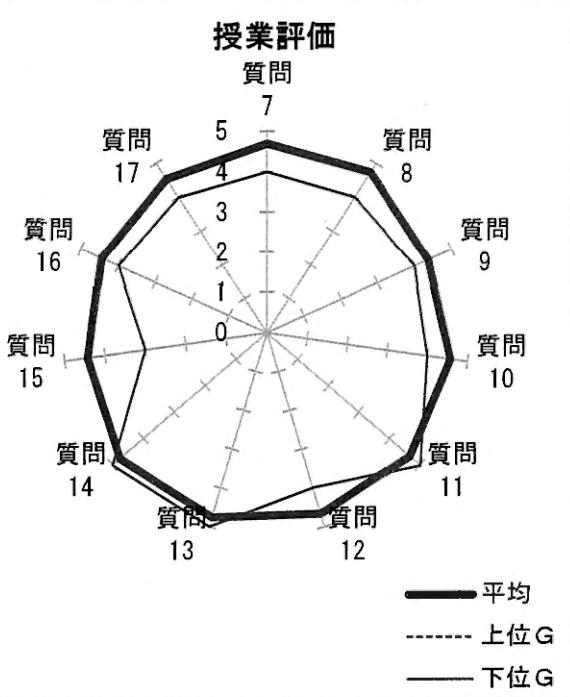
2018年度担当予定科目名：臨床栄養教育実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

集団指導は全員がロールプレイを体験できるが、個人指導は回数が限られているため、できない学生もいることが現実である。やはり全員に経験してもらいその大変さや、やりがいの気持ちを持ってもらうためには全員個人指導を経験できるように、グループの人数を調整して実現させたいと考える。

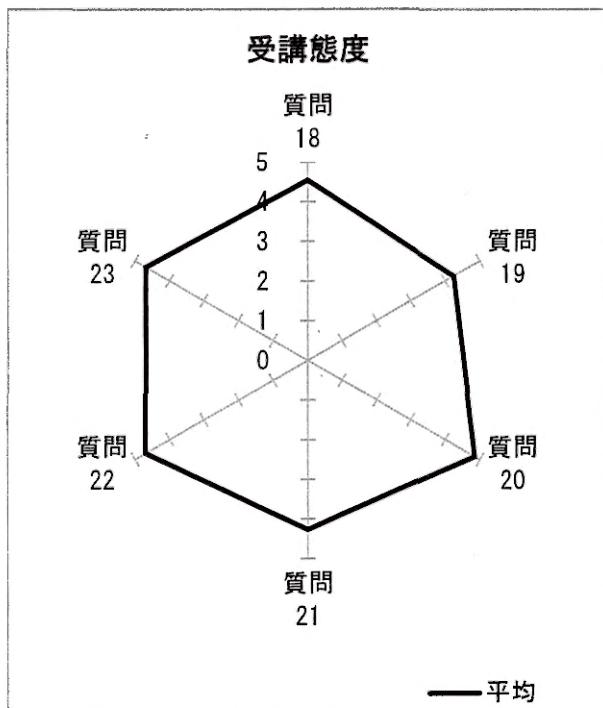
# 科目コード 635 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 藤 希望 臨床栄養評価・管理実習(Aクラス)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	4.0
質問 8	4.7	4.8	4.0
質問 9	4.4	4.4	4.0
質問10	4.6	4.6	4.0
質問11	4.7	4.7	5.0
質問12	4.7	4.7	4.0
質問13	4.8	4.8	5.0
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.4	4.5	3.0
質問16	4.5	4.5	4.0
質問17	4.5	4.6	4.0
平均	4.6	4.6	4.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.2
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	藤 希望	臨床栄養評価・管理実習	66名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

今回の授業評価では、クラス内での差が大きかった。1クラスは受講態度上位と下位の学生の差が0.4とそれほど大きくなかったが、もう1クラスでは1.7と大きく、学生間の差がみられた。下位学生の回答の中でも、評価が低かったものは、「教員の説明のわかり易さ」、「教員の授業環境に対する配慮」、「質問機会の確保と質問への適切な対応」、「学生の理解度の確認と授業への反映」であった。授業内で栄養評価・管理について講義と症例に対する栄養評価、ケアプランの作成演習を行うため、時間の確保が難しい面があった。1回1テーマで実施していたところが、次の授業へ持越してしまったり、授業終盤の説明が早口になったりするなど、授業内の時間配分がうまくいかないことや説明の仕方などに問題があったのではないかと考えらえる。また、授業中に1つの症例を通して栄養管理の方法を学習するだけで、演習問題などの課題や小テストなどを実施していなかったため、学生の理解度に対する配慮が欠けていたものと思われる。授業ではグループ分けもしていたが、グループ内での活動は少なく、基本的には個人での作業が多くなったため、症例の栄養評価、ケアプラン作成についてもグループ活動を増やすことで、他者との考え方の違いや自分の理解度を知ることができ、授業の理解を深めるきっかけになったのではないだろうか。

### II. 2018年度に向けての取り組み

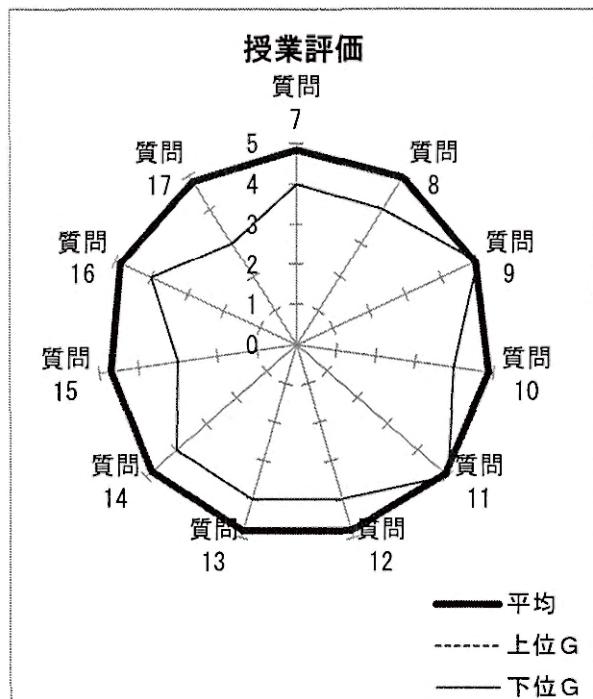
2018年度担当予定科目名：臨床栄養評価・管理論、臨床栄養評価・管理実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018年度は理論と実習の両方を担当するため、上記の反省も踏まえて、理論でしっかりと栄養評価・管理について学べるように講義を行い、実習では演習問題を中心できるように、授業を連携させて進めていきたい。実習の中でお互いに意見を出し合ったり、教え合ったりすることで理解を深められるように、グループワークの時間も確保していきたい。また、授業中の症例だけではなく、演習問題などの課題や小テストなどを実施し、学生の理解度を確認しながら授業を進めていきたい。

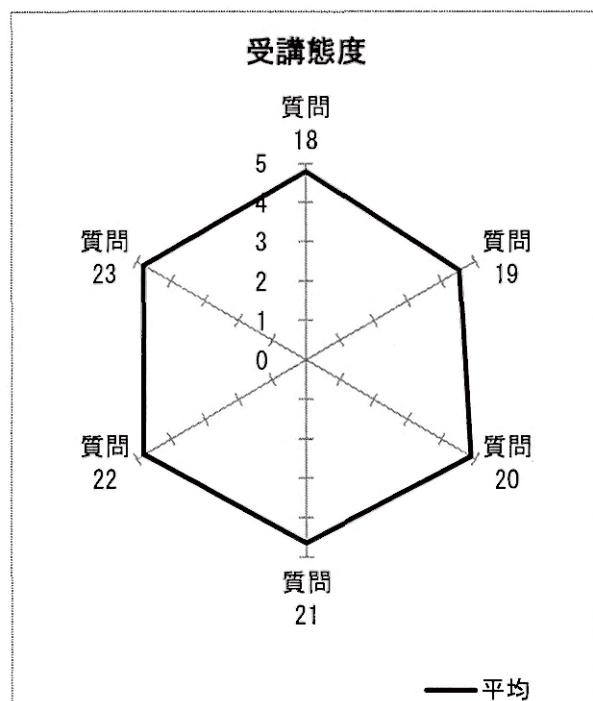
科目コード 636 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 山田 加奈子 公衆栄養学実習(Aクラス)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.9	4.0
質問8	4.9	5.0	4.0
質問9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.9	4.9	4.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.8	4.8	4.0
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.8	4.8	4.0
質問15	4.7	4.8	3.0
質問16	4.8	4.9	4.0
質問17	4.8	4.9	3.0
平均	4.8	4.9	4.0

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問8：教員の授業時間遵守  
 質問9：教員の話し方  
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11：教員の説明のわかり易さ  
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	山田加奈子	公衆栄養学実習	70

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

前期の公衆栄養学（講義）を理解した上で実習内容である。全体を見ると評価は低くはないものの、AクラスとBクラスの評価の差が大きいことが見て取れる。Aクラスの問15「授業の理解度」、問16「興味・関心」についての評価が低いことに関しては特に改善しなければならない項目である。公衆栄養は集団を対象とした健康増進やQOLの向上を目指すための内容であり、これが理解できていなければ4年の臨地実習に行く前に履修する事前科目の理解を深めることができないため、早急な改善が必要であると考える。

実習の中で、現在の健康問題に関する情報や事例を学生に与えてはいたが、どのような健康問題があり、それについてどのような解決策がとられているか等、各章で説明はしたが一連の流れの説明をしなかつたため、それらを繋げることのできない学生は理解不足であったのではないかと考える。自ら健康問題について考える力を身に付けるだけではなく、その改善策についての現状などの理解を深めさせる必要があると考える。

## II. 2018年度に向けての取り組み

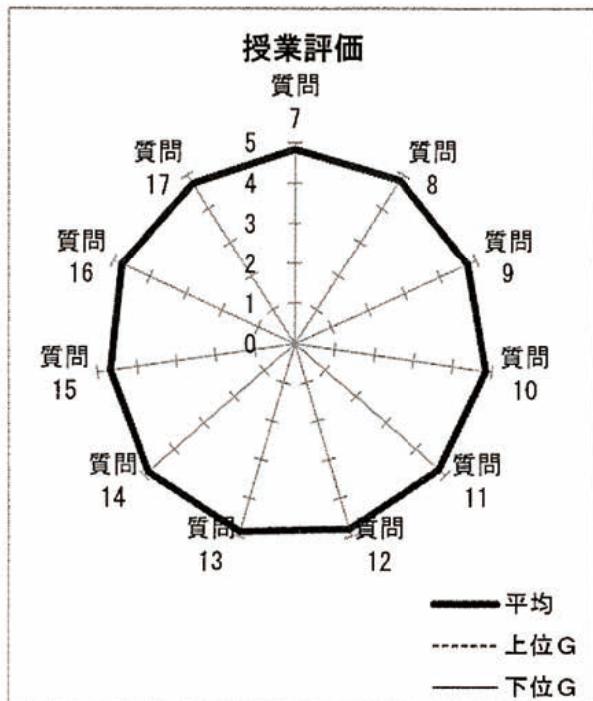
2018年度担当予定科目名：公衆栄養学実習

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

学生の公衆栄養活動に関する知識や興味・関心をさらに高めるため、現在の日本や世界における「健康問題」に関する情報収集を自ら行い、それらの情報を学生同士で共有させることで、学生の意欲を引き出し、それに向けた問題解決がどうなされているかについて、さらに深く理解を深めさせたい。

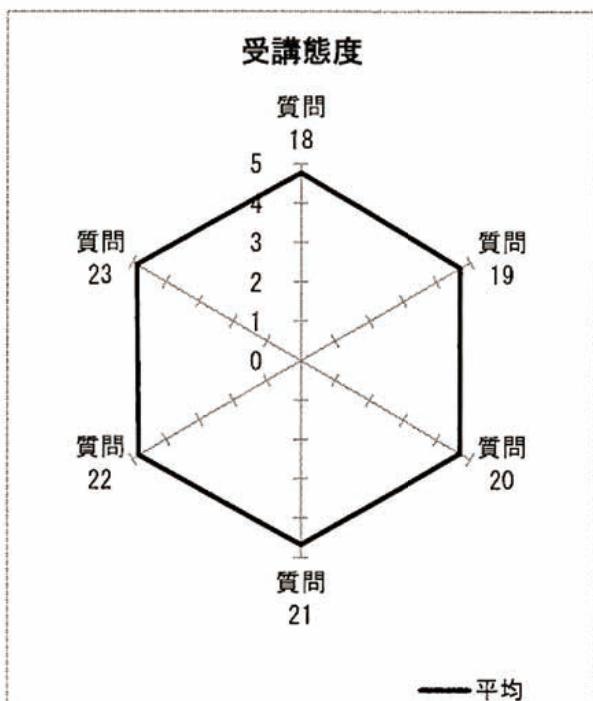
科目コード 641 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 山田 加奈子 公衆栄養学実習(Bクラス)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問8：教員の授業時間遵守  
 質問9：教員の話し方  
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11：教員の説明のわかり易さ  
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.7
質問20	4.7
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	山田加奈子	公衆栄養学実習	70

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

前期の公衆栄養学（講義）を理解した上で実習内容である。全体を見ると評価は低くはないものの、AクラスとBクラスの評価の差が大きいことが見て取れる。Aクラスの問15「授業の理解度」、問16「興味・関心」についての評価が低いことに関しては特に改善しなければならない項目である。公衆栄養は集団を対象とした健康増進やQOLの向上を目指すための内容であり、これが理解できていなければ4年の臨地実習に行く前に履修する事前科目の理解を深めることができないため、早急な改善が必要であると考える。

実習の中で、現在の健康問題に関する情報や事例を学生に与えてはいたが、どのような健康問題があり、それについてどのような解決策がとられているか等、各章で説明はしたが一連の流れの説明をしなかつたため、それらを繋げることのできない学生は理解不足であったのではないかと考える。自ら健康問題について考える力を身に付けるだけではなく、その改善策についての現状などの理解を深めさせる必要があると考える。

## II. 2018年度に向けての取り組み

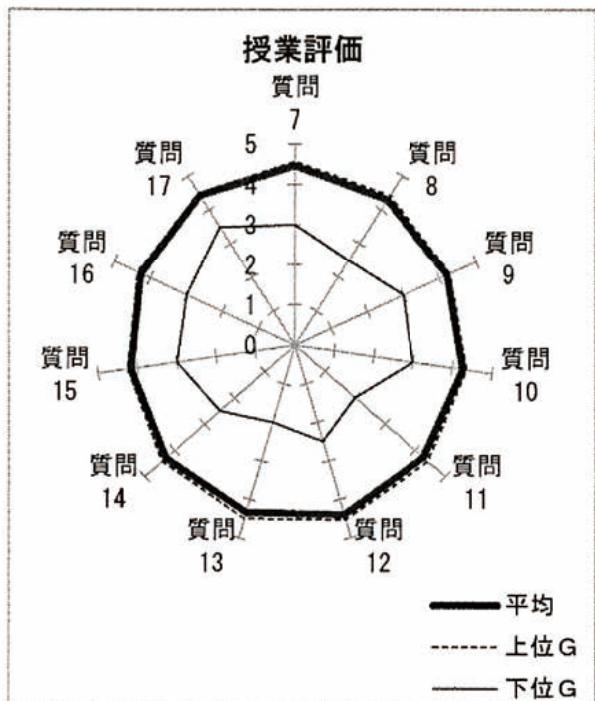
2018年度担当予定科目名：公衆栄養学実習

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

学生の公衆栄養活動に関する知識や興味・関心をさらに高めるため、現在の日本や世界における「健康問題」に関する情報収集を自ら行い、それらの情報を学生同士で共有させることで、学生の意欲を引き出し、それに向けた問題解決がどうなされているかについて、さらに深く理解を深めさせたい。

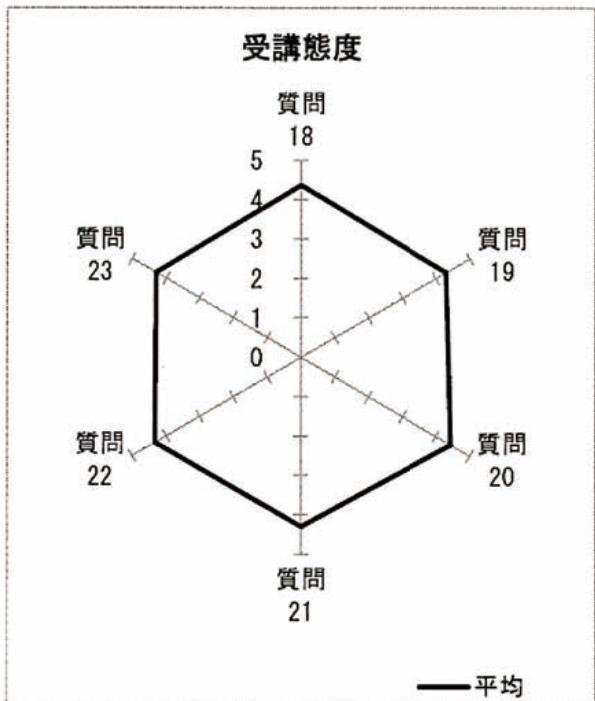
# 科目コード 642 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 藤 希望 臨床栄養評価・管理実習(Bクラス)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.6	3.0
質問 8	4.3	4.4	2.5
質問 9	4.2	4.3	3.0
質問10	4.3	4.4	3.0
質問11	4.3	4.4	2.0
質問12	4.4	4.5	2.5
質問13	4.3	4.5	2.0
質問14	4.3	4.4	2.5
質問15	4.2	4.3	3.0
質問16	4.3	4.4	3.0
質問17	4.4	4.5	3.5
平均	4.3	4.4	2.7

- 質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8：教員の授業時間遵守
- 質問 9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.3
質問20	4.4
質問21	4.3
質問22	4.3
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	藤 希望	臨床栄養評価・管理実習	66名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

今回の授業評価では、クラス内での差が大きかった。1クラスは受講態度上位と下位の学生の差が0.4とそれほど大きくなかったが、もう1クラスでは1.7と大きく、学生間の差がみられた。下位学生の回答の中でも、評価が低かったものは、「教員の説明のわかり易さ」、「教員の授業環境に対する配慮」、「質問機会の確保と質問への適切な対応」、「学生の理解度の確認と授業への反映」であった。授業内で栄養評価・管理について講義と症例に対する栄養評価、ケアプランの作成演習を行うため、時間の確保が難しい面があった。1回1テーマで実施していたところが、次の授業へ持越してしまったり、授業終盤の説明が早口になったりするなど、授業内の時間配分がうまくいかないことや説明の仕方などに問題があったのではないかと考えらえる。また、授業中に1つの症例を通して栄養管理の方法を学習するだけで、演習問題などの課題や小テストなどを実施していなかったため、学生の理解度に対する配慮が欠けていたものと思われる。授業ではグループ分けもしていたが、グループ内での活動は少なく、基本的には個人での作業が多くなったため、症例の栄養評価、ケアプラン作成についてもグループ活動を増やすことで、他者との考え方の違いや自分の理解度を知ることができ、授業の理解を深めるきっかけになったのではないかだろうか。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：臨床栄養評価・管理論、臨床栄養評価・管理実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018年度は理論と実習の両方を担当するため、上記の反省も踏まえて、理論でしっかりと栄養評価・管理について学べるように講義を行い、実習では演習問題を中心できるように、授業を連携させて進めていきたい。実習の中でお互いに意見を出し合ったり、教え合ったりすることで理解を深められるように、グループワークの時間も確保していきたい。また、授業中の症例だけではなく、演習問題などの課題や小テストなどを実施し、学生の理解度を確認しながら授業を進めていきたい。